



いふだより

このたよりは、尾張旭市内の小中学生の子をもつご家庭や、
教職員のみなさん、地域の方に向けて発行しています。

第3号

「子育て講演会」を行いました

8月6日（月）に、渋川福祉センターで「子育て講演会」を行いました。今年度は、KDDIスマホ・ケータイ安全教室認定講師の大久保充宣（おおくぼみつのり）先生をお招きしての講演会でした。「ネットによるいじめを未然に防ぐ」という演題で、保護者として、子どもたちにどのようにスマホ・ケータイを持たせたらよいか、保護者としての責務等についてお話をいただきました。以下で一部を紹介します。

子どものスマホ利用率は年々上がってきており、ゲーム機やタブレットなどを含めたインターネット利用率は、小学生61.8%、中学生82.2%、高校生96.6%と、ほとんどの子どもがスマホやネットを利用して生活していることが分かります。こうした中、忘れてはいけないのは、「子どものスマホの管理者は保護者であり、子どもはそれを借りて使っている」という認識です。約束が守れないときは、毅然とした態度で接してください。一方で、大人もおさえるべきポイントがあります。それは、



① どんな危険があるか、何に気を付ければ良いか教えること

② フィルタリングなどのペアレンタルコントロールを使って子どもを守ること

の2つです。「青少年が安全に安心してインターネットを利用できる環境の整備等に関する法律」では、利用状況の把握、利用の適切な管理、適切に活用する教育の3つが保護者の責務とされています。

1 子どもに教える

スマホをめぐるトラブルは、①依存（長時間利用、高額課金など）②炎上（写真流出、不適切発言など）③人間関係（いじめ、グループはずしなど）④犯罪・出会い（性犯罪、詐欺など）の4つにグループ分けされます。例として、自撮り被害の増加が挙げられます。インターネットは便利ですが、「不特定多数に、すぐに、世界中に情報が伝わり、投稿した画像は消せず（デジタルタトゥーとも呼ばれる）、匿名でも（身元が）バレる」という特徴があるため、SNSなどで自身（または他人）の画像を安易に投稿することは、とても危険な

ことです。また、炎上と関連したSNSいじめなど、人間関係の問題も起きています。ネットを使った文字のコミュニケーションでは、勘違いなどからトラブルが起きやすいです。ネットいじめはエスカレートしやすく、小さなきっかけから大きないじめに発展してしまいます。これらの被害者や加害者になることを防ぐルールとして、①直接会って確認する ②流されずに考え行動する③相手への思いやりを忘れない などが考えられます。

2 子どもを守る

フィルタリングを利用して、物理的に子どもを守ってください。Webフィルタリング（不適切な広告、ウイルス/詐欺サイトを防ぐ）、利用時間制限・課金制限（使いすぎを防ぐ）アプリフィルタリング・年齢レート設定（不適切なアプリ等を防ぐ）などがあります。携帯3社が提供中の「あんしんフィルター」というものがありますが、アプリでフィルタリングをしているので、Wi-Fi環境下でも利用可能です。個別で細かくカスタマイズでき、利用時間制限もできるので、大変便利で安心です。しかし、子どものフィルタリング利用率は45.2%となっており、年々減ってきています。コミュニティサイト起因の犯罪被害者のうち88.2%はフィルタリング加入なしでした。被害児童は、フィルタリング利用率が低い傾向があります。何らかのトラブルに遭ってからでは手遅れで、フィルタリング設定は子どもを犯罪から守るため、命を守るための保護者の責務ととらえてください。

これらのことを踏まえて、親子で話し合い、より具体的で確実な守ることができるルールを決めることが重要なのです。

子育て講演会に参加した方々の感想

- 今まで、フィルタリングを詳しく調べたり、考えたりしたことがなかったので、いい機会となりました。家庭でもルールを具体的に、子どもと相談しながら決めていこうと思いました。
- ネットトラブルの様々な事例を動画で分かりやすく説明していただき、非常にリアルに描かれていて大人の私でも恐怖を感じました。まだ子どもはケータイを持っていませんが、今の時代、必ず持つ時がくると思うので、今日教えていただいたルール作りを子どもと一緒に考えたいと思いました。
- スマホ・ケータイを使ったいじめの深刻さを思い知らされました。我が子が被害者にも加害者にもなりかねないことを考えると少し恐くなりました。
- 子どもにケータイを持たせるときに家族で話し合い、ルールを決めましたが、学年が上がるにつれて少しずつルールがあいまいになってきていることに気が付きました。今日、もう一度、子どもと話し合いたいと思いました。

今年度も大変有意義な会となりました。参加できなかった方々も、本紙面を読んだり、参加した方から内容を聞いたりすることで、子どもたちが被害者にも加害者にもならない安全な携帯電話の使い方を知るとともに、親子で話し合っただけでルールづくりをする際のヒントにいただければ幸いです。